草加を再発見するフリーペーパー

草生人

2013/03・04
・電子版

大地震に備える
～キーマンに聞く草加の防災～

はじめに

「草生人」とは

「草生人」は埼玉県草加市に密着したフリーペーパー、いわゆるタウン誌です。
2012年6月に創刊以来、ほぼ隔月刊のペースで発刊。インタビューを基本とし、お店の紹介だけではなく、生活に密着したテーマに沿った記事や、市内のイベント、出来事などを掲載しています。
合い言葉は「草加再発見」。
部数は現在2500部。ご協力店舗で配布させていただいています。

「草生人　電子版」について

「草生人」の本誌より、その主なテキストと写真を掲載したデジタル版です。Webサイトからダウンロードできるの PDFファイルは、元の大きさと同じA4ファイル大での表示となるため、パソコンやタブレットでは問題ありませんが、スマートフォンでは読みにくいという欠点がありました。電子版では、快適に読むことができます。ePub版もあるので、おもな電子書籍リーダーでも読むことができます。

※広告、いくつかの写真、「そうか小ばなし」は収録しておりません。
※今回の特集記事については、講演内容をまとめた「2012防災講演会レポート」も掲載しておりません。

草生人関連URL

- 草生人Web：http://www.asymos.com/soseijin/
- 草生人Web　バックナンバーダウンロード：http://www.asymos.com/soseijin/isuue/
- 草生人編集長ブログ：http://someiyoshino.way-nifty.com/soseijin/
- 草生人編集部ツイッター：https://twitter.com/soseijin（イベント情報がメイン）
- 草生人Facebook：http://www.Facebook.com/soseijin（草加の写真がメイン）

特集

大地震に備える
～キーマンに聞く草加の防災～

　東日本大震災から２年がたった。地震、津波、火災、そして原発事故という複合災害であり、２万人近い方が亡くなった未曾有の災害。しかし、被害が少なかった私たちは、次第にその災害について忘れつつある。時々テレビの特番を見て決意を新たにしても、目の前のこと、日々の暮らしを優先してしまう。

　「防災特集」は、創刊前からの企画だった。いろいろな人にインタビューをもとに情報をまとめる予定だった。が、講演会に参加し資料を読むにつれ、「そんな時間は無い、ともかく今、伝えられることは伝えよう」と方針を変更した。つまり、今回の特集は取材途中とも言える。
　しかし、もしかしたら、まとめられた情報よりも、人が話した事をそのまま載せた方が、ずっと印象に残るのではないか。そういうふうに考えたのだ。
　実際に防災の現場に携わる人々の言葉は、重い。

　大地震はいつくるかわからない。今、この後すぐかもしれない。あの警報を聞いて慌てる前に、「準備」をしよう。

草加市の防災対策と「自助・共助」

草加市市長室　危機管理担当　マネージャー：黒須 俊之 氏

「市長室危機管理担当」は、草加市全体の災害に対する対応をするところだ。黒須さんはその代表にあたる。防災講演会などでお顔をご存じの方も多いのではないだろうか。
「地震などの災害が起きたときにはどうするのか、また、平時からどのような準備をしなければならないかを考えています。実際の具体的な対応、予防するための計画や震災の応急対策など、さまざまなことを想定して『草加市地域防災計画』を作っています。『震災対策編』24年版を２月に配布しました（※１）」

※１　草加市地域防災計画（震災対策編）
http://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1004/a04/01.html

前回の版の後に「東日本大震災」があり、被害想定の見直しに伴う変更や、帰宅困難者の対応などが追加された。

避難所を役割別に振り分ける

「草加市では今まで避難所という形で54施設（現在は55施設）としていましたが、東日本大震災の時、高年者とか障がいをお持ちの方がいっしょに体育館に集められてしまうと、うまく対応できないということがありました。そこで、32の小中学校の体育館を第１避難所、公民館・コミュニティセンター・文化センターを第２避難所として設定しました。まず第１避難所に入っていただき、高年者や障がい者の方、授乳をする小さなお子さんをかかえているお母さんは第２避難所に入っていただく。公民館などには畳の部屋や小さい部屋がありますから、プライバシーや居心

地の面で配慮ができます」

震災後も自宅で生活するための「自助」

　まず、「建物の耐震化／家具の固定／水・食料の備蓄」だけはして欲しいとのこと。
「これは自宅で生活できることが大事ということなんです。避難所の目的は、あくまでもできるだけ多くの方を受け入れ、最低限の寝る場所と食料を提供すること。そこに居心地のよさとか、快適さとかプライバシーを求めないものであるということです。ちゃんと準備しておけば自宅で生活できますよ、それがベストですよと」
　また外出先では、「自分のおかれた場所で地震が起きたらどのような危険があるのか常に考える」ことが「自助」だという。
「先日アコスホールで防災講演会やったとき、まず上を見て下さい、何がありますか？と質問しました。天井には照明器具がぶら下がっています。今、ここで大きな地震が起きたら照明が落ちてくる危険性がある。その時どうやって自分自身の身を守るかを考え行動する、それが自助なんです」

市役所の耐震工事を進める

　市内の小中学校の耐震工事はすでに終わっているが、市庁舎はこれからだ。この点については「広報そうか３月**20**日号」にも説明がある（※２）。以前は市役所などの公共施設の耐震化は後回しにされがちだったが、震災後に大きく変化した。

※２　つよい市役所を目指して」広報そうか2013 年3 月20 日号
　　http://www.city.soka.saitama.jp/shimin/koho/h24/13032099/01/01.html

「震災があると災害対策本部を立ち上げます。これも危機管理担当の大きな役割ですが、東日本大震災で、自治体が根こそぎもっていかれ災害対策本部が立ち上がらないところがあって、そういうところが路頭に迷っちゃったんです。救援物資の要請や配布、自衛隊・警察・ボランティアの人の手配などは、司令塔である草加市の災害対策本部がきちっとコントロールしなくちゃいけない。震災で市役所がべちゃっとつぶれたら、何もできなくなりますから」

防災拠点と防災行政無線

「避難所の中でも、11校ある中学校は防災拠点として位置づけされています。全国から救援物資が集まり、それを配給する場所です。そして、今どこに避難所が開設され、どの中学校に物資が届いています、取りに来て下さいと知らせるのは、防災行政無線を使います。スピーカーは全市に１２２箇所あります。ふだんは６割くらいの音量。災害時になったら１００％ボリュームアップしますから必ず聞こえます。重要なことは繰り返します。ただ、家の中だと聞こえにくいので、何か鳴っているなあと思ったら窓あけて顔出して聞いてください。停電時でもバッテリーがあるので１００回ほど放送が可能です。また、震度７の揺れにも耐えられます」

避難所は地域で運営する

「避難所の開設訓練は毎年しています。ただ、市の職員は約３００名、避難所は校で、１校あたりにすると10名、大震災が起これば半分くらい。避難者の想定は全部で５万人ですから、２０００人対５人になってしまいます。そこで町会、今準備しているのは実はそこなんです」

「避難所の運営を自治会・町会にお願いする」、草加市では今、その形を進めているが、問題は町会・自治会に入っている草加市民が６割を切っていることだ。

「『道普請』というものがありました。自分達で使う道路に穴があったら、自分達で砂利や砂を使って直す地域の取り組みです。そうやって地域のコミュニティができて、近所の人の顔を見る機会があった。今はそれが無くなってしまいました。昔は町会の役割が大変大きかったんですよね」

最後に一言。

「ともかく、地域に関心を持って欲しい。自分の住んでいるところに。町会というと、会合や清掃活動のイメージしかないけれど、今はいろいろなことを企画していますから。防災講演会（※３）もたくさんやっています。地域に目を向けて、防災を考えていきましょう」

※３　防災に関する「市役所出前講座」

http://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1003/a09/PAGE000000000000029783.html

草加市全体の訓練にぜひ参加を！

これからの防災訓練

草加市消防本部　消防防災課主査※　森 淳一 氏
（※現　草加市消防署西分署係長）

森さんは、防災訓練を企画し、実施する仕事をされている。前回の西町小学校で行われた防災訓練の時も、現場で指示を出されていた。おもに草加市の防災訓練と、地域防災組織についてお話を伺った。

草加市全体の防災訓練と九都県市合同防災訓練

「ブロック毎の防災訓練が一巡し、今は「第１回草加市総合防災訓練」という形を進めています。構想はかなり前から少しずつ考えていました。平成26年度に行われる「九都県市合同防災訓練」（※１）で、埼玉県の中央会場が草加市になりましたので、１年前の25年度はそれに準じた訓練ができればと思っています」

※１　九都県市合同防災訓練
http://www.9tokenshi-bousai.jp/kunren/

全市訓練は**10**月**20**日に行われる。
「訓練に先だって、草加市民全員でシェイクアウト訓練を行うことを考えています。サイレンを鳴らして、ぐらっときたらなんでもいいんで隠れましょう、身をかがめて避難姿勢を取りましょう、という訓練です。詳細は決まっていませんが、防災行政用無線を市全域に流して、草加市民全員を巻き込んだ訓練をやりたいっていうのが趣旨です。全員やってくれるといいんですけど」
「シェイクアウト訓練」というのは、２００８年に米国で始まった防災訓練。様々な人たちが様々な場所で同時に行うのが特徴。詳しくはサイトを（※２）。

※２　The Great Japan ShakeOut2013
http://www.shakeout.jp/

全市訓練では３つの会場を使う

「企画にあたり第一義に考えたのが、訓練形態を３つの会場を作るということ。全体を指揮する中央会場が１つ。それから街中訓練会場。計画では草加小学校の前を通行止めにして街中の災害訓練会場に。そこを災害現場にして町会の方や、消防隊が出動する訓練を考えています。もう一つは、まだ場所が決定していないのですが、帰宅困難者誘導訓練を行う予定です」

　中央会場は訓練本部になり、いろいろな訓練を予定。各ライフラインの業者、協定を結んでいる各企業など「草加市に関わる団体の多くに出ていただく」とのこと。

「中でカッパを着て嵐を体験できる『降雨体験車』や『日本捜索救助犬協会』にも予約入れています。ワンちゃんが探してくれて、消防や自衛隊が救助する防災訓練。草加市の登録業者、防災関係企業に防災用品の見本ブースを作ってもらう予定です」

　今回、自衛隊にも出動を依頼している。

「第32普通科連隊から救助と炊き出しをお願いしています。九都県市防災訓練には、自衛隊、消防、警察を中心としたあらゆる救助隊が来るんですよ。それを考えてお願いしました」

町会・自治会での訓練にぜひ参加を

　身近な防災訓練といえば、町会・自治会単位で単位で行われているものだ。

「町会・自治会をベースとした自主防災組織が１３４団体あります。訓練を必ずやってくださいという条件で補助金を出していますので、ほとんどの町会は１年に１、２回、訓練をしています。月に必ず１回は集まって、防災倉庫にある機材の点検をやられている熱心な町会さんもあります。が、町会自治会単位で内容がバラバラなんです」

　しかも、市民のうち４割は町会に加入していない。

「道具を用意するのも重要ですが、結局は人なんですよね。たとえばジャッキ。一人では作業できないし、車を輪留めして動かないようにするなどの安全確認は必要。そうでないと逆に崩れて、二次災害が起こる。そういう連携も必要なので、日頃から町会単位で訓練して、みんなが使えるようにしないといけないのですが」

常に防災を意識することの大切さ

「みなさん勘違いされているのは、自分が自分の家にいるときに地震が起こると思っている。それを前提に質問されている方が非常に多い。そうじゃないですよ。どこで被災するかわからない」

　東京にいる、帰省している、スーパーにいる、もしかしたら駅の公衆トイレにいるときかもしれない。

「私子供のときから古武術をやっていますが、先生から言われた言葉を覚えています。『君たちは道場に来たときだけじゃなくいつでも武道家になってないといけない』。よく時代劇で、森の中で手裏剣が飛んできても侍がカーンとよけますよね。あれは『襲われることを意識している、ここで斬りかけられたらまずいなと思っている、だから飛んでくるものが避けられるんだ』と」

　災害も同じだという。意識するだけで違ってくる。

「常に思ってなさいというのも酷ですが、ある程度は備えてくださいと。シェイクアウトもそうなんですけど、訓練をやることによって、防災の意識が生まれれば大成功です。今回、草加市全体の訓練ということで、いろんな会場で参加してもらって、啓発活動ができればいいなと、思っています」

2012年11月11日に西町小学校で行われた防災訓練の様子

共助をめざす地域の防災と町会

「防災」のキーワードである「自助・共助・公助」の「共助」にあたる部分、地域の防災について、草加市では町会での防災活動に参加するよう勧めている。市の防災計画でも、町会・自治会による自主防災組織が重要な役割を果たす。今回、市の「みんなでまちづくり課」に意図を伝え、紹介していただいた二つの町内会の会長さんにお話を伺った。

松江北町会：ダイキン工業との合同訓練

松江北町会長新田東部ブロック長　上手 一雄 氏

ダイキン工業との合同防災訓練

　松江北町会では、平成**12**年に周辺５町会と市役所、ダイキン工業の３者で『地域防災協定』を結んでいる。

「草加市も含めた大規模な合同防災訓練を２０１０年から実施しています。訓練はだいたい５月。今年は５月19日。ダイキン工業のグラウンドに避難して、さまざまな訓練を行います」

　問題は、「防災訓練だから避難してください」といっても人が来てくれないこと。そのため、できるだけ目玉となるイベントを行っているという。去年は消防署から、カゴがついていて上の階の人を助けるバケット車を出してもらった。

「防災会で持っている手押しポンプでの一斉放水もしました。ただ、実際に火事があったとき、水源が無くて使えませんでした。川は遠いんです。そういうことをひとつひとつ確かめながらやっています。また、消防署から貸与していただいている防災器具、ポンプや発電機、電動のこぎりなどの点検もしています」

「今年の目玉は『自衛隊』」。まだどういう形で訓練に参加してもらうか決まっていない。町会の訓練に自衛隊が参加するのはめずらしいが、ダイキン工業との合同訓練ということで来てくれるのではないかとのこと。

「『九都県市防災訓練』には自衛隊も来ます。今年実施される草加市の全体の防災訓練にも来ます。だからプレのプレという感じで」

嬉しかった震災時の若者の自主活動

　防災で大事な「共助」の基本単位となる町会だが、その重要性をどうやって伝え、町会に入ってもらうかは、それぞれ大きな悩みのようだ。町会ではひとつ自慢したいことがあると、嬉しそ

うに語ってくれたのは、若い世代の会員達の行動。
「震災の時、電話がすぐに繋がらなくなっちゃったでしょ、若い子はインターネットの回線で話できたんだってね。それでみんなに連絡とって、地元にいる人と一戸一戸全部回ってくれた。自主的にやってくれたんですよ。前もって決めておいてくれたらしいんです。震度いくつかになったらそういうふうにしようと」
　指示をしなくても部下が自主的に行動してくれる、そんな組織を作ることは町会でなくても理想的だ。秋口にも訓練避難主体のものを行っている。
「毎年２回は必ず行ってるんですよ」
　地域の方はぜひ参加して欲しい。

瀬崎第一町会：街なか防災訓練で参加しやすく

瀬崎第一町会長　谷塚東部ブロック長　浅古 八郎 氏

「市民会議」で町会と共にまちづくり

　浅古氏は、瀬崎第一町会を含む谷塚東部ブロックのブロック長でもある。このブロックが特徴的なのは、中心となる「瀬崎コミュニティーセンター（以下コミセン）」を、「谷塚東部ブロック瀬崎まちづくり市民会議」が市から委託を受け自主運営していることだ。市民会議の事務所ともなっている。この形で運営されているのは市内でもここだけだ。２か月に１回「瀬崎まちづくりニュース」という新聞を発行（３月で１０２号）、これは町会とは関係無く配布されており、地域の情報を地域住民全員に知らせることができる。

安心カードと「街中防災訓練」

　「安心カード」は、「瀬崎まちづくり市民会議」で提供されている、名刺大の三つ折りのカードだ。

「財布にこれを入れておけば、急に震災が起きて何かあった場合、すぐに医療関係者に見せれば状況がわかります」

　また、市内ではここだけと強く話されたのが「街中防災訓練」。毎年一つのところだと来る人が固定してしまうが、移動すればその近くの住民が来てくれる。

「要するに出張するんです。１つの場所でやれば来る人決まってますよね。我々は３つか４つにわけて、毎年そこに移動しちゃうんです。これがとても好評なんです」

　訓練をちゃんとやっておかないとパニックになる。「いざというときだけやる」のは無理、とっさに体が動かないだろうと話す。

草加市初の「参集訓練」も実施

　参集訓練とは、避難所の設営・組織運営の訓練。町会が避難所の運営を担う想定のもと行われ、去年初めて瀬崎第一町会が行った。ただ、現在町会が避難所を運営することはおろか、第１、第２という種類があることも知らない人がほとんどだ。

「学校が避難場所だって知らない人多いんですよ。近くのコミセンでいいと。でもコミセンは第２避難場所ですからここはいったん閉鎖される。このことは誰も知らないですね。これを地域の人にわかってもらえないとね」

　防災だけではなく、自分の住んでいる地域のことは自分達でやっていく、ここはその意識がとても強い。

「自分達の町は自分達で作ろうと。この町はそういう人が多いです。今までも行政と話し合いながら、町をどんどん変えてきたんですよ。安全カードもぜひ全市に広めたい」

防災用品は売り場で見て触って選ぶ

ユニディ草加新栄店　副店長　管原 輝仁 氏

　防災の情報を得た後は、どこかのショップへ行って防災用品を購入することになる。どんな防災用品があり、どんなポイントで選べばいいのか。実際に防災に力を入れているという「ユニディ草加新栄町店」を取材させていただいた。

カタログで提案する防災用品

「私が草加店に来たのは去年の３月。３・１１が起きたときは液状化の被害があった千葉県市川市の店舗にいました。本社も浦安にあります。このときホームセンターがお客様から必要とされているものだと気付きました。会社としてももっと力をいれましょうと」

　ユニディ草加新栄町店のオープンは２０１０年の３月頭。オープンの１年後に３・１１が起こった。

「防災用品は今まで定番の棚にしかなかったんですが、それを定番スペースの外に陳列を押し出すアウト展開をし、３・１１以降続けてきました。また、防災カタログを作ってお客様にご提案をしています」

　取材時、売り場には東京都で４月から施行される「帰宅困難者対策条例」向けと、女性向けのおしゃれなグッズのコーナーが設けられていた。それぞれ同名のカタログが配布されている。３・１１の後「ほんとうに役立つ防災グッズを載せましょうと」制作された防災カタログは、シーン別に編集されとてもわかりやすい。毎年改訂されている。

「浦安で避難訓練に参加させていただいたとき、このカタログに載っているものをすべてそろえて展示会をしました。その後何人もお店に来ていただきました」

非常食も売っています

　一番売れている防災用品は非常食だという。ホームセンターでは食べ物は扱ってない印象があるが、一般的な非常食の他にも缶詰等、かなりのスペースが割かれている。

「古いものを消費して新しい非常食を補充しましょうという『ローリングストック法（※１）』という提案をしています。おうちで１日非常食を食べて過ごしてみるのも面白いかと思います」

　防災用品は日々進化している。売り場には、タンクの水の腐敗を防ぐ防腐剤や、度数が調整できるメガネなど、実際に触れて初めて「これは便利かも」と思う防災用具が他にもたくさんあ

った。
「ホームセンターはお客様に何が必要か提案できる場所だと思っています。なかなか防災用品って見る機会がないですから、ぜひいらしてください」

※１『非常食の新たな備蓄法「ローリングストック法」を実践する』
http://www.nhk.or.jp/sonae/column/20130217.html

注目防災用品
価格は３月末現在。実際に店頭でご確認ください。

3.11の後に制作されたカタログ
『最初の１分間を生き残るために今すぐできること：転倒防止・ガラス飛散防止用品』『３日間を自力で生き抜くために！どう過ごすべきか：避難生活用品』といった形で商品を紹介、どんなときに何が必要かがとてもイメージしやすい（毎年内容を一新しているため現在は配布されていない）

避難リュックセット
「これさえ買っていただければある程度はそろいますね。昔からあったんですが、バッグじゃなかったんですよ。箱に入っていた。最近は1人分がリュックサックになっています。家族全員の分が必要ですね」

ブックシェルフキット
「本棚に入るんですよ。家の本棚にも入れられますしね、置き場所に困るようなら。企業も書棚に入れておければいいですよね。地震のあとこういったものも開発されています」
各1,980円

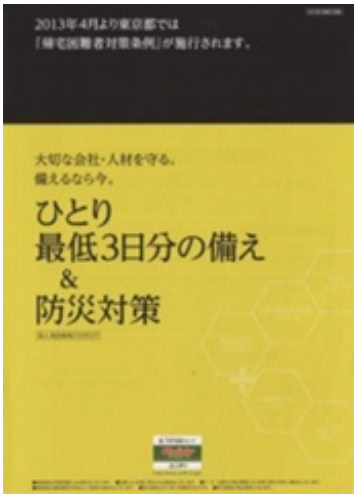
エマージェンシークッション
「ふだんはクッションで、いざというときは防災ずきんとショルダーバッグになります。ブランケットも付いています」
4,200円

トーチライトアンブレラ
「これおもしろいんですよ。折り畳み傘って通勤のときバッグにいれるじゃないですか。懐中電灯といっしょになっていればすごくいいかなと。こういうのも本社の女性の意見を取り入れてやっています」
2,100円

非常食
「今までは乾パンとか水戻し飯しかなかったけれど、パスタとか、とてもおいしいものが出ています。何日も避難生活がつづくと飽きてしまいますので、こういうおかず、肉じゃがとかおでんとかを共同開発しています」

踏み抜き防止のインソール：ソールバリア
「瓦礫の上を歩くとき釘などが刺さるのを防ぎます。ステンレス板が入っています。ガラス片を踏んだとしても足は傷つかないよと。つま先に鉄が入っている安全靴にプラスソールバリアを入れることによって、下からも防ぐ。昔は男性用しかなかったんですけど、各種サイズで切ればいいです。22からできるんで子供にも使えます」各1,980円

ライト＆ホイッスル
「ホイッスルはよく売れています。瓦礫の下にいて声が出せないときに使います。ストラップになっていて、これはライトもついています」
各1,050円



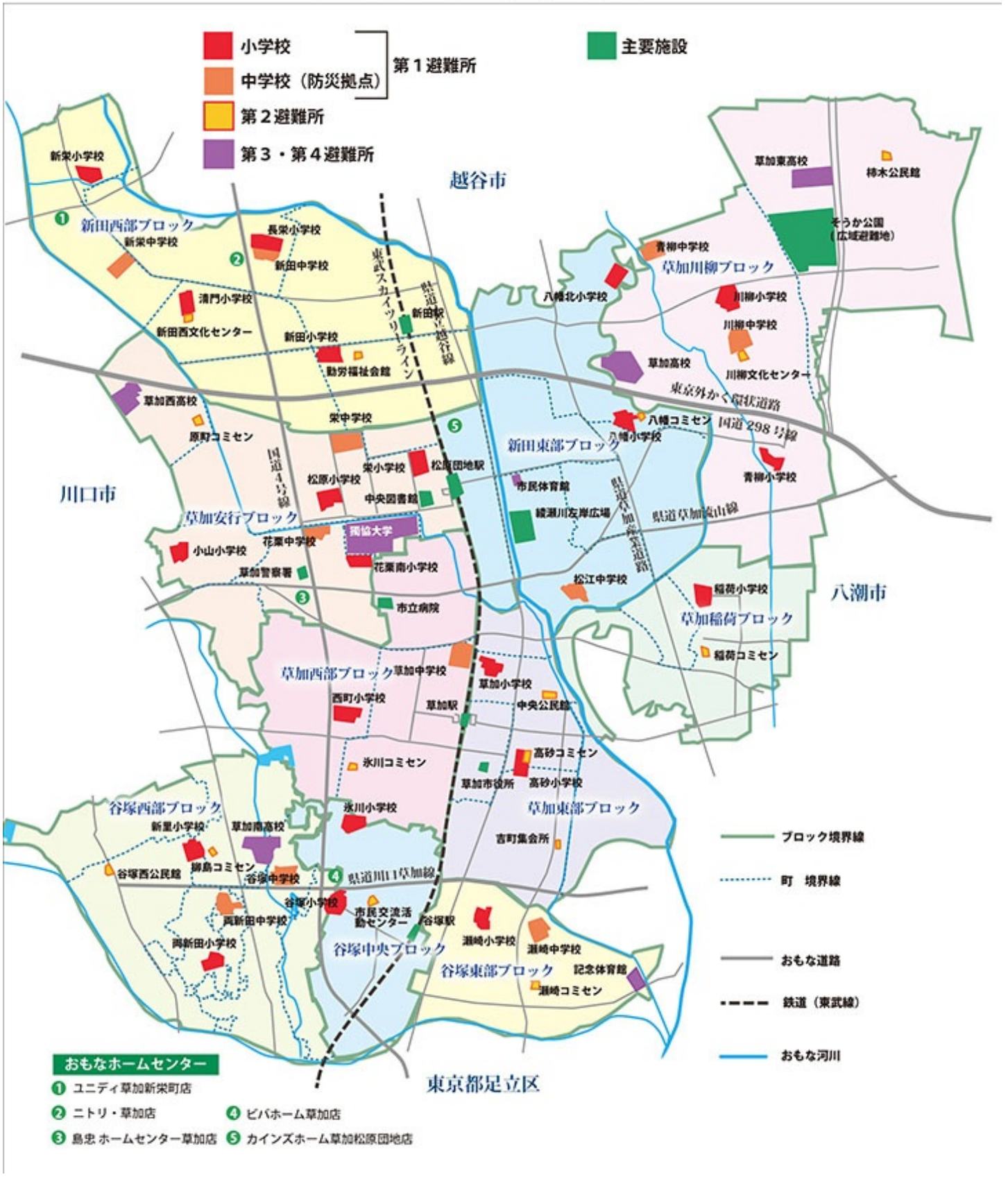
「帰宅困難者対策条例」に合わせた企業向けカタログ

防災マップについて

地図は、「指定避難所」（市内55箇所）と、町会・自治会連合によるブロックのだいたいの位置を示した地図です。点線は「町」の境界線です。おもなホームセンターも示してあります。
※拡大表示するには、こちらのPDFファイルをダウンロードしてください。
http://www.asymos.com/soseijin/download/soseijin201303_8pabu.pdf

草加市指定避難所 MAP

市内町会・自治会ブロック



避難所について

第**1**避難所：中学校および小学校

優先的に開設される。中学校は拠点避難所となり、食料などはこちらに届き、ここから小学校に配布される。

第**2**避難所：公民館・コミュニティーセンター・文化センター・勤労福祉会館等、主として小規模かつ市で運営する施設

援護や介護を必ずしも必要としないが、団体生活上支障がある高年者及び障がい者、乳児と保護者等、またその家族について数グループを収容。

第**3**避難所：県立高校・市立体育館

必要に応じて開設

第**4**避難所：獨協大学

予想外の事態で避難所が収容不足になった場合などに開設。

広域避難地：そうか公園

火災の延焼等で避難所が危険な場合等の、一時的避難空間となる。

町会・自治会のブロックについて

市内の町会・自治会は10のブロックに分かれています。
毎年の防災訓練は、基本的にはその地域：町会・自治会単位にある「自主防災組織」で行われています。この地図では、町会・自治会単位の表記は難しいため、ブロックのみを示していますが、ブロックごとにコミセンなどがあることがわかると思います。

町会・自治会は地域防災の基本単位となりますので、ぜひ加入しましょう。

なお、自分の住んでいる地域がどの町会にあたるかは、場所によっては町名と一致しないところもあり、マンション単位の自治会もあります。まず市役所の「みんなでまちづくり課」に確認しましょう。

「草加市地域防災計画（震災対策編）は、現物は市役所で閲覧可能なほか、各町会・自治会（自主防災組織）にあります。また、草加市公式サイトでもPDFファイルを公開しています。

「防災特集」まとめ

　今回の特集は最初に書いた通りインタビューメインとなっているため、内容の重複や重要なポイントの抜けがあるかもしれない。この点、お許しいただければと思っている。
　以下に、今回の編集を通して得に重要だと思ったことをまとめてみる。

●自分の命を守るための準備をする（家具の転倒防止や、外出時のホイッスル・ライトの携帯）
●自宅で３日間は生き延びられる準備をする（非常食や簡易トイレなどの準備）
●町会・自治会など地域のコミュニティに参加する
●防災訓練に参加する
●常に「防災」の意識を持ち、地震が発生したらどうなるかを考える

　講演やインタビューで繰り返し出たことは、ひとつが「大地震はいつ起こるか分からない。明日かもしれない」ということ、もう一つが「共助と地域とのかかわり」だ。
　大震災が発生すれば人と情報の流れが止まる。最優先としなければならないのは「自助」、自分の身を守ることだが、それから生きていくことを支えるのは「共助」、近くの人々との協力となる。
　復興をテーマとした別の講演会では、「祭りがあるところは復興が早い」という話をうかがった。

　最後に、去年の防災講演会で聞いた大木聖子氏の言葉でまとめとしたい。

「マグニチュード７クラスの地震であれば、必ず生き残れる。日本はそれだけの技術と社会制度と１人１人の認識がある世界でもまれなところ。日本人なら死ぬな！」

草加イベントレポート７

中央図書館　古本市

草加ミュージックフェスティバル

中央図書館古本市

2013年2月2日　草加市中央図書館

　図書館の蔵書を入れ替えるために行われる恒例の「古本市」。筆者は初めての参加。どれくらい人が来るのだろう、今どき「本」の需要はそれほど無いんじゃないかな、と思っていた。が、整理券をもらうために20分前くらいに着いたにもかかわらず、すでに行列が出来ていた。１組ごと、25分の入れ替え制だ。もらった整理券は３組78番。
　中に入ると、ずらりと並ぶダンボール。その中に本が入っている。
　人気のあるのは芸術系の本、そして絵本だ。普通に買えば高価で、大型のものも多く、その価値が時間の経過に関係が無い。それらの入っているダンボールは、みるみるうちに数が減っていく。
　再入場は禁止、カートやダンボールなども禁止されている。ともかく１人で抱えられる分ならＯＫなので、めいっぱいの量かかえている人もいた。「無料」はやはり魅力的だ。表紙でピンときたらともかくＧＥＴ。後からじっくり吟味すればよい。
　本は補充されるというが、やはり一番最初に「掘り出し物」があるのだろう。行列ができるのもうなずける。次回はもっと早く来よう。

草加ミュージック・フェスティバル

2013年**2**月**3**日　草加文化会館

２月３日（日）、草加文化会館ホールで第８回草加ミュージック・フェスティバルが開催された。

出演者はジャズを始め、和太鼓、アフリカ、阿波踊り、アカペラ、シャンソン、演歌、津軽三味線など多岐に渡っていた。

オープニングは和太鼓集団「草加　保育魂」。保育園の男性保育士のグループだ。演目は「三宅太鼓」。若い男衆が腰をぐいっと落として力強く打ち込む太鼓の響きによって、高らかに開会が宣言された。

続いて登場したのはワッシー・ヴィンセント・ジュニアさんのグループ。ワッシーさんはカメルーン出身。もともとは打楽器奏者だが、１９９４年に来日して三味線に出会い、三味線の師匠に弟子入りし、草加に住むようになった人物である。この日は三味線の新内から始まり、アフリカンな複合的なリズムを三味線と組み合わせて刻むサウンドで会場を盛り上げた。「好きなものを３つ並べた歌です」という紹介から始める曲は、歌詞が「納豆、しおから、生卵」の繰り返しだけ。実は曲名は「無理」という。

なんと阿波踊りグループ「いなせ連」も出演。女踊り、男踊り、子供たちの踊り、大勢での多重な構成の踊りなどが途切れなく繰り出される。最後はいつのまにか客席に踊り手たちが散らばって会場全体を巻き込むクライマックスを演出した。

獨協大学アカペラサークル「ＯＬＦＭ(オルフム）」も登場。当日は同サークルから６人組グループ「ぷりずむ。」が参加。パーカッションの声を軸に、ハーモニーを重ねて、スピッツの曲など明るいポピュラーソングを響かせた。

神保満さん率いる**Jimbo's Jazz Orchestra**は、18人編成で分厚いジャズサウンドを披露した。途中からゲストのトランペット奏者が現れ、懐かしのニニ・ロッソの曲を吹いて観衆の心をつかむ。

トランペット奏者が退場すると、ビッグバンドはそのままに着物姿の真渕りかさんが登場。ジャズアレンジでの演歌を歌った。

津軽三味線の五錦雄互さんが登場。津軽じょんがら節、よされ節などをパワフルに演奏した。あいさつがきわめて素っ気ない。ストイックに感じられて好感が持てた。

鈴木恵津子さんはシャンソン歌手。「更年期のサンバ」「健忘症の歌」などのコミカルな歌を軽妙なトークを挟みながら披露。そして名曲「時は過ぎていく」で感動を呼び込む。

最後は特別ゲストのジャズシンガー酒井俊さんが、アルトサックスの林栄一さんとピアノの田中信正さんとともに登場。感情を爆発させる歌や、魂を震わせ鎮めるような歌など、圧倒的な力を持ったパフォーマンスに正直驚いた。初めて出会った世界だと思った。

収穫の多いフェスティバルだった。次回が楽しみだ。

そうか■まちだより

1. 時間がゆっくり流れる異空間、うさぎの人形が佇む和食器の店「こもん」
2. バレンタイン企画でハート型チョコせんべい作り（せんべいの庭）
3. 心地いい喫茶店の演奏会「如月のみたり」
4. 息の長い復興支援に向けて今、ここからはじまる!!（UC東北応援プロジェクト　草加市民先行上映会レポート）

時間がゆったり流れる異空間、うさぎの人形が佇む和食器の店「こもん」

「こもん」は、新田ふれあいロード商店街にある和食器の店だ。最初に訪ねた時、扉の中はほの暗い静かで穏やかな空間で、別の世界への扉を開けた気持ちになった。

入り口側は和食器。ガラス工芸作家の森永豊氏、『陶房 澄』を主宰する陶磁器作家の角田武氏、『はちのす陶房』の三浦順一氏の作品などが並ぶ。奥に入ると、和装をまとった人形達が佇んでいる。

店主の林三枝子さんにお話を伺った。

人形作りを始めたのは30代。自分自身がどちらの方向にいこうか悩んで落ち込んでいたとき、『人形が茶碗で釣りをしている写真』に出逢った。黒須瑛子さんという「ちりめん人形」作家の作品だった「いいな、こういうものに囲まれていたら気持ち的に裕福な、今と違う生活になりそうだな」と思い、教室に通い始めたという。今は「百貨店に出品していてお留守の人形もいます」というくらい、人形作家として認められるようになった。

お話をうかがって一番驚いたのは、人形作りで一番難しいことが「生地を探すこと」だということ。

店内にある人形達が着ている和服は、「藤色」や「銀鼠」など日本の伝統色でないと伝えられない落ち着いた色合いをしている。今出回っている絹は紡績加工がしてあり、人形には使えない。昔ながらの方法で絹を生産しているところは無く、骨董市などで探すしかない。「なくて当たり前、あったらラッキー、という感じ」。つまり、人形達は長い時間を経た古い古い着物を纏っているのだ。

店内に今の時間と違う時が流れているような静かな空気が存在するのは、そのためなのかもしれない。

「時間とともに生地って優しくなってくるんですよ。お茶碗なんかもそうです」

和食器のスペースでは、いくつかのうさぎの人形が和食器と遊んでいるが、とても自然な感じだ。

和食器では、有田焼が好きなところから始まった。ただ、こちらは創作ではなく、販売に携わることになった。いい陶芸作家の作品に出逢う方に喜びを感じたのだという。

「美術作品ではない、雑器（ざっき）っていう毎日使うものの世界の方が好きですね。伝統工芸展などにある器はなんでこんな使いにくい形してるんだろうと思う。冷や奴のせたら美味しそうだなあとか、これにしらすをのせてみようかな、ネギをいっぱいのせてみようかな、と思わせる器が、私にとっていい器」

「洗っていて楽しいって思わせるものがけっこうあるんですよ。裏の方まで気を配ってあるものだったりするとおもしろいなと思ったり。なでまわしたくなるような雰囲気があるんです。それは、自分で手に取って初めてびびっとくるような気がします」

「新田ふれあいロード商店街」はこれから再開発に入るが、お店の今後について具体的なことはまだ決まっていないという。「まだこれから何が起こるかわからないから」。

一度このお店に入って和食器の手触りを楽しみ、人形達に囲まれて店主とゆったり過ごす、そんな時間を持った人は、必ず「固定客」になるだろう。ちょっと今の時間の進み方に疲れたら、ぜひ寄ってみて欲しい。

こもん
草加市金明町294-6
☎048-932-4878

バレンタイン企画でハート型チョコせんべい作り

２月９日（土）、金明町の「草加せんべいの庭（山香煎餅本舗）」にて、せんべい手焼き体験の「バレンタイン企画」が開催され、近隣から集まった子供たちや家族でにぎわった。

川口市から来た駒井結花ちゃん（６歳）は、ご両親に手伝ってもらいながらせんべい手焼きに挑戦。ハート型のおせんべいにチョコレートを塗ったりトッピングを載せたりして、かわいいバレンタインチョコを作った。

主催は「燃生塾（ねんしょうじゅく）」という団体である。
塾長であり、山香煎餅本舗の製造部長である工藤修さんによると、燃生塾は、せんべい文化を自主的に勉強するために２００６年に設立された団体だという。草加せんべいの庭で定期的にせんべい焼き体験会を開いたり、各地のイベントに出展したりしている。
「山香煎餅本舗は『新しい草加せんべい文化の創造』をビジョンとして掲げていて、そのビジョンを実現するために草加せんべいの庭も燃生塾も作られたんです」と工藤さんは語る。
「自分で焼いた手焼きせんべいのおいしさをたくさんの子供たちに知ってもらいたい」と、小学校の１クラスが来ても対応できるように、草加せんべいの庭に当初から手焼き台を台設置したという。

草加せんべいの庭では、クラシック、ジャズ、和楽器など、様々なジャンルの音楽コンサートも開いていて、せんべいだけでない文化の拠点にもなっている。

草加せんべいの庭
住所：埼玉県草加市金明町790-2
電話：048-942-1000
営業時間：10:00～19：00
http://www.yamakosenbei.co.jp/wordpress/?page_id=91

心地いい喫茶店の演奏会「如月のみたり。」

２月６日、以前取材にお伺いしてから、月に１回ほど美味しいランチとデザートを食べに伺っている「茶房平」で、アンサンブル演奏会があると聞いて訪ねた。
生憎その日は雪。しかし店内は満席。静かに演奏の開始を待つ。

演奏者は「みたり」。メンバーはフルート宮川悦子さん、ピアノ山崎結有さん、サキソフォン戸張真衣さんの３人。「みたり」は、「ひとり、ふたり、みたり」。つまり３人を示しているとのこと。

曲目は「くるみ割り人形」『白雪姫』より「いつか王子様が」など、なじみ深いものばかり。個人的には、「You Raise Me Up」が心に残った。アンコールは「愛の賛歌」。そんなに長い時間ではなかったけれど、久し振りに何かが心に充たされた気がした。
フルートの宮川さんは、草加でフルート教室「se piasce」を主宰、「草加市演奏家協会」会員でもあり、草加市内の音楽イベントでも活躍されている。ブログをのぞくと今年の目標は「いつでもニコニコすること！」本当に音楽が大好きで、日々を楽しく過ごしている、そんな感じが溢れていて、幸せな気持ちがほんわか湧いてくる。
音楽をライブで聴くことと、プレーヤーやテレビなどのメディアを通して聴くことの一番大きな違いは、体全体で聴くことができることだ。音が空気の振動であることを改めて思ってしまう。そして、喫茶店のような小さい場所での演奏会は、楽器の音だけではなく、演奏者の息づかいや指が楽器に触れる音、衣擦れ、そんなかすかな音も全部ひっくるめた、居心地のいい異空間を作ることが魅力なのだと思う。
こうした小さな規模の演奏会が草加のいろいろなところで毎週のように行われていることは、とても素敵なことだ。
今年は草加市が「音楽都市宣言」を出してちょうど20年の節目の年。このことを、多くの人に知ってもらいたい。

「茶房平」では8月7日に『《葉月》のみたり。』を開催予定。

宮川悦子　フルート教室「**se piace**」
http://sepiace.jimdo.com/
草加市演奏家協会
http://www.geocities.jp/s_music_performers/

息の長い復興支援に向けて今、ここからはじまる

東北応援ビデオプロジェクト　草加市民先行上映会

（レポーター：勝間翼）

　中高生が自主的に地域社会で活動しようと昨年結成したばかりの草加United Children（草加ＵＣ）がファーストプロジェクトとして立ち上げた「東北応援ビデオプロジェクト」のＤＶＤが、ついに完成した。これは、未だ震災によって困難な生活を余儀なくされている人たちの「心の復興」を目指し、埼玉県の旧国名である『武蔵』になぞらえて草加市民６３４人にメッセージをお願いし、写真に収めたもの。映像は、草加出身のアーティストの楽曲にのせてゆっくりと写真が展開していく。

　私たちは、設立以前から復興に向けて活動したいと考えてきたが、自分たちのお小遣いでは被災地に行く交通費すら捻出できず、草加市にいながら復興に向けてできることは何だろうかと考え、「心の復興」にたどり着いた。夏から冬まで、市内のお祭りや事業所などに出向いて協力を呼びかけ、最終的には７１５人分の写真が集まった。
　最初は「ＵＣとは何か」理解を求めるところから始まり、１０人、１００人を超えるだけでも一苦労だった。中にはお願いを断られたりすることもあった。
　その一方で、「若者が頑張っているから応援しなきゃ」という前向きな声もあり、積極的に協力してくれそうな団体を紹介していただいたり、メッセージを書くのに必要な紙とペンを無償提供してくださる方もいて、私たちの活動の励みとなった。

　ＤＶＤが完成し、２月10日、勤労福祉会館視聴覚室にて行った草加市民先行上映会には、名の参加者があった。中には、原発事故の影響で福島から草加に避難してこられたご家族の姿もあり、真剣に映像を見入っていた。
　「がんばれ」とひらがなで書いてくれた子供たちの笑顔、「明日に向かって」と大きな文字で筆を取っていただいた年配者の暖かい眼差し一　あの震災から２年を迎える今、一人でも多くの東北の人たちに見てほしい。私たちの復興支援は、ここからはじまるのだ。

【DVD送付先一覧】
慈恩寺（岩手県陸前高田市）／宮城県東松山市 貝殻塚二区／やまもと復興応援センター／七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター／南三陸災害ボランティアセンター／南三陸商工会／歌津伊里前福幸商店街／南三陸さんさん商店街／南三陸町内の全小・中・高校／南三陸ホテル観洋／もがみUC　ほか
※送付先は2013年３月現在。今後も送付先が増える場合がある。

草加の元気人！7

草加どどん鼓連盟会長：森岩男さん

草加どどん鼓連盟代表：森　岩男さん

応援に助けられると疲れが消え、
そこで前を向くとまた走り続けられる

　３月**17**日に「第２回草加松原太鼓橋ロードレース大会」が開催された。２つの太鼓橋の上り下りがコース中に設定されていたり、「応援の部」という「種目」があったりと、ユニークなロードレース大会だ。
　その大会の開催に関わるなど、草加市陸上競技協会の副会長として草加市民の「走り」をバックアップしてきたのが森岩男さんである。
　また森さんは草加市内の和太鼓団体を束ねる「草加どどん鼓連盟」の代表でもある。宿場まつりをはじめとする様々なイベントへの出演で、活気ある街づくりに貢献している。

森さんのマラソンの記録は？

「フルマラソンで２時間59分だね」

サブスリー（３時間を切ること。市民ランナー界のほんの一握りのトップクラス層）ですね！
副会長をなさっている草加陸上競技協会ではどんな活動をしているんですか？

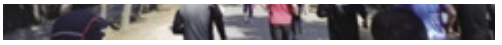
「たとえば陸連の大会での審判をやってる。学生や社会人、東日本実業団とかそういう大会の審判ね。埼玉駅伝もやった」

今年２回目の草加松原太鼓橋ロードレース大会（キロ）が開催され、大成功で終わりました。２年前はハーフマラソン（ふささらマラソン）がありましたね。

「ハーフは交通規制の範囲が広くなるし長時間になるし、どうしても地域の住民に不便を強いる。それで10キロのレースにして、主要道路の交通規制は最小限にするようにコース取りしているんですよ」

制約を逆手にとって、太鼓橋をコースに組み込むなどユニークな大会にしたわけですね。

「実行委員会としては、草加を楽しんでくださいという気持ちが強いです。競技志向じゃなくてね。
　スタートとゴールを草加駅に近い草加小学校校庭にして遠



方から参加しやすくし、街ぐるみのおもてなしを楽しんでもらいたいんです。今年は去年より１時間遅く９時スタートにしたのも、商店街が活動する時間に合わせるため」

応援の部という種目も面白い。ギターの弾き語りもいた。ランナーが身につけていた計測用ＩＣチップを出演者別の箱に投票（返却）することで応援の部の優勝を決めるというのも素晴らしいアイデア。

「第１回の応援の部優勝は草加どどん鼓連盟がいただいた。やっぱり太鼓の音はランナーの鼓動と響きあって士気が高まるからね。マラソンに太鼓はつきもの。青梅マラソンに出たことある？」

ないんですよ。森さんは何回？

「僕は33回。青梅マラソンでは、毎年「へそ饅頭本舗」というお店の前で太鼓の応援があるんですよ。でかい太鼓を10丁ぐらい、普通の太鼓を15丁、締め太鼓20丁ぐらい並べて演奏するんですよ。すごいよ！」

すごそうですね！
マラソンで疲れたとき、太鼓の応援には励まされますね。

「太鼓の応援があると疲れがふーっと消える。不思議だよね。太鼓の音はお母さんのおなかの中で胎児が聞く心臓の音と似ているってよくいいますよね」

太鼓はいつから？

「荒川区に住んでいた20代のころ、町屋で盆踊りの太鼓を聞いて叩きたくなったのが最初。
　草加に移ってから、神社で保存している太鼓を見つけた。大太鼓と締め太鼓とお面とかいろいろ。それで仲間たちと小山太鼓保存会を作った。かれこれ30年近く前になるかな」

市内の太鼓団体の集まりである「草加どどん鼓連盟」はどんなきっかけで作ったんですか？

「前はバラバラだった。交流がないと競争心みたいのが生まれるじゃない。じゃあ交流しようということで始まった。交流ができて親しみが生まれ、いっしょにイベントに出るようになった。２０１０年に20周年コンサートをやった。次は25周年をやるよ」

最近脳梗塞という大病を患いましたね。

「３年前の12月の暮れだった。朝起きて２階から降りて、女房に話しかけようと思ったら呂律が回らなくなったの。そのうち右手が効かなくなり、字が書けない。箸も握れない。そして右足に違和感が出た。次の日歩いて近所の病院に行ったら脳梗塞とわかって、そのまま入院になった」

歩けたということは軽い症状だった？

「もともと自分はリスクが少なかった。タバコ吸わない、酒飲まない、血圧高くない。運動はしてる。日頃行いがよかったの（笑）」

入院はどれくらいの期間？

「18日間。ただ、僕の場合脳幹梗塞といって、脳幹付近の毛細血管に詰まりが生じた。脳幹に血の塊が飛んだらアウトだった。僕はこの世にいない」

危なかったですね。

「退院してから４、５か月はゆっくり歩きました。それから徐々に走り始めました。
　ただ半年後にまた脳梗塞になった。それでまたゆっくり歩くところからやり直し。今は軽いランニングができるようになった」

よくぞ回復しましたね。

「それは僕が病気に立ち向ったからです。自暴自棄にならず、病気と正面から向かい合う心の強さがあったから。なにくそ、ここで倒れてなるものかという気持ち。
　マラソンだってきつくなるとそこでやめたくなる。でも応援に助けられると足の痛みも疲れも消えるでしょ。そこで前を向くとまた走り続けられるでしょ。人には自分を治す力があるんです」

電子版　編集後記

　まずは、この電子版を読んでくださった方に感謝いたします。。

　どうもありがとう。「草生人」をこれからもよろしくお願いします。

　さて、この「防災特集号」は、企画の当初から真っ先に電子書籍版として出そうと考えていました。
　「防災特集」の企画は、去年何回か参加した「防災講演会」が下敷きになっています。そこで得た情報をもとに構成を考えて記事にしました。内容については、特集の冒頭に書いた通りです。

　ただ、大勢の人に読んでもらいたい内容なのに、今のところ「草生人」の知名度は低く、しかも全部配布したとしても2500部にしかなりません（まだ残っています(^_^;)。WebでPDF版を配布してはいますが、PDFは誌面をそのままデジタルにしたものなので、スマートフォンではとても読みにくい。
　そこで、「電子書籍」という形で配布させていただくことにしました。

　３・４月号の発行はもともと大幅に遅れていた上、電子版をどういった形で配布するのかを決めるのに時間がかかり、この時期になってしまいました。

　今後、本誌発行の後に電子版を編集していきます。バックナンバーも順次電子版を制作していきます。
　よろしくお願いいたします。

（2013年5月14日）

草生人2013年3・4月号電子版
http://p.booklog.jp/book/70731

著者：ASYMOS
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/asymos-yoshino/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/70731

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/70731

編集・発行責任者：ASYMOS 染谷洋子　someiyoshino@asymos.com

※本誌に掲載される記事の著作権は発行元及び発行責任者に帰属します。
© 2013 soseijin ASYMOS.INC
※記事の引用、転載のご希望がある場合は、記事によって取材先の許可が必要な場合がありますのでご連絡をお願いします。
※内容に関するお問い合わせは：asymos_info@asymos.com
※もしくはこちらへ： http://www.asymos.com/FormMail/iken/FormMail.html

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ